

平成30年度 宮崎県立日南高等学校 学校評価

学校経営ビジョン	2020年に100周年を迎える県南きっての伝統校の使命にふさわしい、エクセルシヨー精神を受け継ぐ、ふるさとを大切にす、未来を創る人間を育成する			
本年度の重点目標	<p>1 夢育む（学力向上）</p> <p>(1) 高い理想を掲げさせ、自ら学ぶ日南高校生を育成し、生徒の可能性を引き出す。</p> <p>(2) OJTに取り組み、授業研究を実施する。 (3) 「フェニックス・ナビ」を活用し、個に応じたきめ細かな指導をする。</p> <p>2 友集う（人間関係づくり）</p> <p>(1) 師弟同行による指導を通して基本的な生活習慣を確立し、規範意識や自主性を育てる。</p> <p>(2) 学校行事、ボランティア活動を通して、人や社会とつながる力を培う。 (3) 生徒同士の学び合う関係を深め、互いに教え合い、共に伸びようとする学校環境をつくる。</p> <p>3 命輝く（自己実現）</p> <p>(1) 各コースならではの教育を展開し、生徒の進路目標を達成する。</p> <p>(2) 部活動を推進し、各種大会やコンクールに積極的に参加させ、その姿勢や成果を生涯にわたる成果とする。 (3) 特色ある教育活動を推進して、キャリア教育を行う。</p> <p>4 地域と結ぶ（信頼される学校）</p> <p>(1) 家庭、中学校や地域との連携を強化する。 (2) 広報活動を充実させ、あらゆる場面で日南高校の良さを発信する。</p> <p>(3) 定員の確保に向けて、魅力ある学校の特長づくりを推進する。 (4) 創立100周年記念行事に向けて、同窓会との連携を進める。</p>			
重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A) 方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)	学校関係者評価
1 夢育む (学力向上)	①総務部と連携して高校説明会やパンフレット、学校案内等を充実させる。	■パンフレットや学校案内等の情報量を増やし、広報に努める	○ 卒業生の進路や在校生の模試をデータ化し検証を行う。○ 中学校訪問を行い、中学との連携を深めることで、学校行事や日常の学校への関心や協力を呼びかけていきたい。	3
	②学校の情報を広く発信するためにオープンスクールを充実させる	■オープンスクールの内容を充実させる	○ 生徒主体の活動を広くアピールする他の校務分掌の協力を得て、生徒主体のオープンスクールを実施することができた。	3
	③生徒の学習活動を広く知ってもらう	■「チャイム、静思」を徹底し、授業時間の充実を図る	○ 静思により落ち着いた授業への取り組みができており、自習時も静かで、前向きな取り組みができています。	3
	④計画的な学習の推進と家庭との連携を行う	■計画的な学習を習慣化させ、課題等への取組を強化する	○ 宅習量調査の時期を変更し、日常の宅習量の実態の把握に努めた。学年毎の宅習量調査ではクラスの格差はある。スマホやゲームの時間を調査する欄を追加し、更に実態の調査ができたと思う。いろいろな形で学校の教育活動を広く広報し、家庭との連携を図る。	3
2 友集う (人間関係作り)	①身だしなみの意識改善と、挨拶の活性化	■全職員が校則を把握し、統一した指導を行う ■常時指導の徹底を図る	○ 奨励部の部活動生を中心に、日常的に朝のあいさつ運動を行うとともに、職員による挨拶指導・風紀指導を行った。学期当初に全職員で校門指導を行った。○ 朝の静息前に、起立し、身だしなみを整える時間を設定した。	4
	②HR活動、部活動、課外活動及び学校行事等への積極的参加	■HR活動や学校行事を工夫し、生徒が積極的に参加する意欲を高める	○ 学校行事において、適宜リーダー育成を図り、生徒の主体的な取組を促した。	4
	③交通安全の意識啓発とマナーの向上	■部活動生の靴に光るステッカー貼付等により、無事故・無違反を目指す	○ 保護者と協力して学校周辺での交通指導、餌肥駅での乗車指導を行い、マナー向上を図った。	3
	④携帯電話やインターネットの正しい使い方の理解促進	■携帯電話の使用方法及び取扱に関する指導を生徒・保護者に徹底する	○ 携帯電話やインターネット使用上の注意、家庭内ルールの明確化、情報モラルの向上を目的とし、本校独自の「スマホ四箇条」を作成し、生徒・保護者へ入学予定者説明会、PTA総会、PTA地区懇談会等の機会を通じて周知した。	4
	⑤規範意識と帰属意識の高揚	■いじめ問題について全校あげて取り組む	○ 通常のいじめアンケートに加えて、いじめセルフチェックを実施し、いじめ問題、善悪の判断や自分のとるべき行動等について語り、規範意識や人権意識の高揚を図った。	4
学校関係者評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか ・自己評価の結果は指標等を基にした妥当なものであるか ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか ※ 自己評価、学校関係者評価とも、1～4の4段階評価とする 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する			
				具体的意見 ・オープンスクールでは、早い段階で1,2年生の生徒、保護者対象に対応していただきたい。 ・昨年度に比べ、中学校訪問回数が増え、評議委員会でも出された問題点などに対する改善がなされている。 ・生徒主体のオープンスクールや寺子屋にちなみなど、中学生が興味を持ち進学したくなるような取組を続けていただきありがとうございます。通学時間や天候のことを考えると日南市内の高校への進学は一番だと考えます。今後とも生徒も参加して日南高校の良さをアピールされるとともに、宅習量の実態調査など、生徒の学習実態を把握され学力向上の取組をお願いします。 ・オープンスクールの充実については、中学校との連携なしにはあり得ないと思います。中学時の基礎学力の大切さ、地元高校への進学メリット等教職員、保護者一同が例えばPTA地区懇談会等を利用して学びの機会を設けてみてはどうでしょうか。 ・パンフレットは見やすく内容も良いと思います。家庭だけでなく地域との活動をさらに深めていって欲しい。

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)			具体的意見
3 命輝く (自己実現)	①職業観の育成につながる取り組みの実施と地域との連携	■南那珂地区におけるエリアネットワーク会議や工業会との連携・情報交換及び日南市主催のメディカルサイエンスユースカレッジ等での各種体験に積極的に参加する	○ 将来像を具体的に描くことができる取り組みを数多く実施する。○ 学年と連携して、実施企画の精選・検証を行う。 ○ 公的機関や外部業者との連携を積極的に行うことで、探究科学コース、普通科全体を含めキャリア教育の充実を図る。 ○ 学年ごとの実施が有効に機能して、3年間を見越した流れはできあがりつつある。 ○ 年度当初に全ての計画立てをするのが難しい。外部との調整が必要な点が多いため、行事との調整を細かく図りたい。 ○ 日南市との就職会議をきっかけとして、企業との接点が生まれて生徒の就職先確保につながった。他の機関とも積極的に接触していきたい。	3	3	<p>・生徒たち一人一人の進路実現のために、校内進路相談会を充実させて欲しい。</p> <p>・地域でいろいろな活動を行っておられる人々がいる。学業とは直接関係なくても人として生きるとはどのようなことなのかを考えさせられるような講話をお願いしてはどうでしょうか。</p> <p>・進路選択の情報を多く提供する取組はとても素晴らしいと思います。作成された「進路の手引き」がどういものかわかりませんが、保護者が有効に活用されますよう取り組みをお願いします。自由選択制講座による個別指導は生徒にとって大変ありがたいものではないかと思えます。</p> <p>・分野別教養講座は、保護者にも希望を募ってはどうでしょうか。以前「公務員になるなら大学に行つて土台を築いてきて」と言われたことが新鮮でした。生徒だけでもったいないと思います。校内進路相談会は好評だったので、今後の成果につながるよう期待しています。校長先生を始め進路指導に携わる先生方のご尽力には、保護者の時には見えなかった陰の力をとても感じます。</p> <p>・職業についてではなく、「どのような生き方」があるのかも学ぶ機会を増やして欲しい。</p>
	②外部講師による模擬授業等の充実や進路達成のための体験活動の推進	■分野別教養講座、出張講義、オープンキャンパス・看護体験・ボランティア等の体験活動、各種大会・コンクールへの積極的な参加を推進する	○ 7月に大学・短大・専門学校の出張講義・出前授業である分野別教養講座を実施する。 ○ 外部業者と連携した進路相談会の企画を行う。○ オープンキャンパス等への積極的な参加を促すため、定期的な情報提供に努める。 ○ 日南市の教育機関派遣事業のみならず、できるだけ外部との学習面での交流を図る場を設けて、生徒の学習意欲を喚起する。 ○ 「分野別教養講座」は、進路意識を高めるために非常に有効であると思われる。次年度以降も内容を精選して、数多くの学習意欲の喚起につながる場面を設定したい。 ○ 体験活動等の設定においては、できるだけ生徒の現実的な進路希望に添う内容とするように、吟味していきたい。次年度も校内進路相談会を実施したい。	4	4 3 4	
	③学力検討会や進路検討会の充実	■1・2年では学力検討会を2回、3年生では進路判定会を実施する。時間を十分に確保し、学力向上に向けた今後の取組を検討する	○ 各学年の生徒の学力を細かく分析するとともに、今後の取組を具体的に検討する。○ 対外模試の結果判明直後に、学年ごとに教科分析会を実施する。○ 完成した「進路の手引き」の内容を吟味・精選して、本校独自の進路関係資料を提供できるように工夫する。保護者にも活用してもらえるものになるように努力する。○ 検討会のいずれにおいても、教科担にも出席を求めて、様々な意見を取り入れることに努めた。今後も学年と連携して、内容の充実を図りたい。○ 徐々に変化していく入試の形態に対応できるように、確実な情報収集と、職員間での情報共有に努めたい。 ○ 対生徒指導能力の向上につながるように、職員の指導力向上につながる研修会の充実を図る。	3	2	
	④課外・土曜講座の充実と習熟度に応じた個別指導の充実	■3年生の放課後課外については、類型に合わせた編成とし、学年の要望も組み入れたものとする	○ 3年生の放課後課外に一部、講座制を取り入れ、個に応じた指導を充実させて、自由選択制講座をとする。 ○ 放課後課外終了後には、リスニング対策講座は授業内で対応して、放課後の時間を有効活用する。 ○ 夏休みの課外を、1・2年生は午前中のみ4時間、3年生は午後までの6時間として実施する。 ○ 水曜日の7時間目を3年生の面接・小論文対策指導にあてる形式に変更して4年目となった。大きな成果は残せなかったが、個々の指導を充実させるためにも、この時間の確保は継続すべきと感じる。 ○ 放課後の時間を活用して、レベル別の学習指導ができる指導体制を整備したい。	4		
4 地域と結ぶ (信頼される学校)	①家庭、中学校や地域との連携を強化する	■高校説明会や中学校訪問を通じて、正しく本校の現状を理解してもらう	○ 各中学校別のポスター・各中学校別のビデオを高校説明会前に作成し、本校に対して中学3年生が親しみやすくなるように工夫した。 ○ 「日南高校Q&A」を作成し、中学生が本校に対して持っている不安の解消や良さのアピールをする材料とした。 ○ 高校説明会の2回開催校は串間・吾田・油津・東郷・北郷にとどまり、鶴戸・榎原・南郷・飢肥・細田は開催されなかったため、働きかける必要がある。 ○ 中学校において、学校案内に書いてあることの質問を受けることもあり、繰り返し説明する機会を増やして行くことが大切である。	4	4	<p>・高校説明会では学校の特色を生かして興味を持てるようなパンフやポスター、ビデオ作成の工夫はもちろんですが、パンフやHPではわからないことなど限られた時間ではありますが丁寧にわかりやすく説明して欲しい。</p> <p>・寺子屋にちなんはとても良い取り組みで、中学生に直接アピールできる場でもあるので今後もしっかり行っていくことが大事である。「県南の雄」たる日南高校であり続けてもらいたい。</p> <p>・オープンスクールやリトルティチャーなど生徒が参画する機会を持つことは、中学生には日南高校を身近に親しみやすく感じられ生徒には段取りを考えたり、教えることの難しさの経験など貴重な学習になり双方にとって利点があると思います。地域に信頼され親しまれる学校への取り組みが、生徒数増の一助になるのではないかと考えますので継続をよろしくお願ひします。</p> <p>・寺子屋にちなんは微笑ましくもあり期待の持てる取組だと思います。100周年記念式典には、JR日南線を活用し来校してもらイベントはできないでしょうか。JR存続にもなるのではないのでしょうか。 ・お店や施設、企業にもポスターを掲示できないか。</p>
	②広報活動を充実させ、あらゆる場面で日南高校の良さを発信する	■広報媒体の製作に当たっては、目的を明確にして作成した。また、「日南高校便利エクセルショー」の内容の改善を行った	○ 日南高校ポスター・学校案内を年度当初の早い時期に完成させ触れる機会を増やした。 ○ 日南高校便利「エクセルショー」を年5回発行した。また、掲載記事では、行事の紹介だけでなく、推薦合格者の声や本校入学のメリット紹介の掲載などPRの充実にも努めた。さらに、今年度は、宮崎市南部の中学校にも配布した。 ○ 本校ホームページでのフェイスブックをほとんど毎日更新し、見てもらえる工夫を継続している。引き続き見てもらえる工夫を継続する必要がある。また、閲覧の広報を進める。 ○ 3学期には「日南高校ポスター」「学校案内パンフレット」についての構想をまとめ、来年度早々に作成できるように準備を進める。 ○ 日南高校便利「エクセルショー」の各号の編集方針を定め、それぞれの号の狙いを明確にした編集を行う必要がある。	4	4 4 4	
	③定員の確保に向けて、魅力ある学校の特長づくりを推進する	■「寺子屋にちなん」やオープンスクールの開催を通じて、本校の良さを実感してもらう	○ 「寺子屋にちなん」は合計12回実施した。本年度は数学でリトルティチャーを在校生から募り、身近に先輩達の良さを実感してもらおうよう工夫した。 ○ 7月開催のオープンスクールでも、生徒主体に運営がなされた。約130名の参加の参加があった。 ○ プレ寺子屋2月2日開催予定 ○ 「寺子屋にちなん」・「オープンスクール」については広報に努め、参加者の増加をはかる。 ○ プレ寺子屋は12月下旬に時期を面して、中学2年生が参加しやすい状況をつくる。	4	3	
	④創立百周年記念事業に向けて、同窓会との連携を進める	■百周年に向けた体制づくりを進める(記念式典日・記念事業内容などが決定された)	○ 百周年記念式典日を2020年11月7日と決定し、講演者についても具体的な人選を進め、生徒主体の内容での充実を図るとした。記念事業はITC環境の整備と決した。また、2019年度には、本校OBの人材バンク登録制度を活用して土曜講座枠での講演を企画する予定である。メモリアルルームの設置と展示物の収集を進める。○百周年の周知のために、横断幕の製作(飢肥城下祭り披露)・顔出しパネルの作成、ロゴの製作を行った。 ○ 2020年11月7日開催の本校創立百周年記念式典に向けて、校内組織、機運づくり(ロゴ・スローガン・100周年講座(仮称))の具体化につとめる。 ○ ホームページに同窓会関係のコーナーを設置し、更新に努める。 ○ メモリアルルームの整備を具体的に進行。	3		